

1 章 勝連城跡周辺における観光の現状と課題

1 上位・関連計画

勝連城跡周辺の回遊性の向上に関する方針や整備内容に関する上位・関連計画を整理しました。
整理した内容は以下のとおりです。

計画名	勝連城跡周辺及び回遊性の向上に関する内容
沖縄 21 世紀ビジョン 基本計画	＜基本施策＞ 1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して （5）文化産業の戦略的な創出・育成 ア 文化資源を活用したまちづくり 3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して （2）世界水準の観光リゾート地の形成 ウ 観光客の受入体制の整備 5 多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して （6）地域社会を支える人材の育成 イ 地域づくりを担う人材の育成 ＜圏域別展開の基本方向＞【中部圏域】 ア 観光リゾート関連産業の振興
中部広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」	＜勝連城跡周辺の位置づけ＞ 「歴史・文化拠点：勝連キムタカ拠点」 ＜4. 都市環境に関する主要な都市計画の決定の方針＞ （2）都市景観形成に関する方針 個性的なまちなみ景観の創出／良好な自然景観の保全／文化交流型観光への取組／歴史的景観の保全／周辺整備及び観光ルート化
うるま市新市建設計画	＜新市のまちづくりプロジェクト：沖縄県の中核拠点づくりプロジェクト＞ 観光を生かした地域空間創出プロジェクトの推進／世界遺産周辺整備事業の推進 ＜地域別まちづくりの方針＞ （6）南部市街地地域 ②まちづくりの方向 勝連城跡の保存・修理／勝連城跡周辺の歴史・文化資産の保全と活用／基盤整備／生活道路の道路幅員の拡幅・歩道整備／安全・安心な道路環境の創出／特産物の販売拠点等の整備
うるま市総合計画後期基本計画	＜分野別計画 施策の推進＞ 1－3－1 都市計画・街づくり・景観づくり （4）景観づくりの推進 歴史・文化遺産にふさわしい景観づくり 2－3－2 歴史・文化財 （1）文化財を生かしたまちづくり・地域づくり 勝連城跡周辺地域の保護／勝連城跡周辺の公園整備／市民が憩える空間づくり／地域資源に対する市民の意識醸成／継続的な文化財の保護・管理・活用／地域住民の参加による歴史資源のPR活動 3－3－1 観光 （1）観光振興の取り組み推進 観光産業と連携した体験型の観光振興／滞在型観光等の推進／来訪者に対する意識づくり（ホスピタリティ）／受け入れ先などとの協力／観光リゾート産業を担う人材の育成／文化観光拠点の整備／休憩所を含めた周辺施設等の有効活用／観光誘客及び物産振興 3－3－1 観光 （2）観光資源の整備・充実 歴史資源の整備／既存観光資源の整備・設備／観光関連施設の誘致／観光物産情報拠点の整備の検討／観光ルートの設定・整備
うるま市都市計画マスタープラン	＜（勝連）与勝中学校区まちづくり方針＞ 【水と緑】 各集落に残る湧水（カー）などの周辺環境の維持・保全／地域の人々が集える公園の整備／勝連城跡周辺を観光や学習、交流の場としての整備／歴史遺産の活用／文化のまちづくりの推進 【歴史文化・景観】 勝連城跡の史跡の保全／勝連城跡から周辺地域や海への眺望の保全／海中道路への眺望の保全／新たな眺望保全のための仕組みの導入／建物の高さや形態などの規制・誘導／電線の中地化など沿道景観づくり／地域の貴重な自然景観の保全
うるましみどりの基本計画	＜地域別みどりの配置方針＞ 【勝連地区】 樹林地の保全／農地の保全／海岸・海浜の保全／歴史文化資源の保全・活用／屋敷林や地域のシンボルツリー等の保全／道路の緑化と維持管理／公園・緑地の整備／公共施設・民間施設の緑化／住宅地の特性に合ったみどりの保全・創出／高台からの眺望の保全／地域とともに取り組む緑化活動

計画名	勝連城跡周辺及び回遊性の向上に関する内容										
うるま市景観計画	＜エリア別方針＞ 3) 与勝半島エリア 高台からの緑と街並みの保全／周辺に広がる美しい海を望む眺望景観の保全／沿道景観の創出／地域の伝統や文化が色濃く残る生活景観の保全・育成 ＜骨格別方針＞ 1) 拠点（1）シンボル景観拠点 優れた美しい景観を有する資源とその周辺を位置付ける／施設及び史跡等の適切な保全・管理／魅力的な視点場づくり／視点場からの眺望景観の保全 2) 軸（3）グスクロード グスクを結び、生活や活動する人々の動線の中心となる主要道路を位置付ける／背景にある歴史的・文化的要素や周辺地域の特性を考慮／沿道の緑化誘導・修景／快適で魅力ある道路景観づくり ＜重点地区の候補＞ （1）勝連城跡及び海中道路周辺地区 資源周辺の環境保全／景勝地の周辺にふさわしい街並みづくり										
うるま市観光振興ビジョン	＜観光振興の具体的施策＞ ＜I-2 滞在・体験型観光地づくり＞ （1）滞在健康保養型プログラムの開発と滞在施設の整備誘導【重点施策】 （2）自然・文化・産業資源を生かした体験型観光の推進【重点施策】 ＜IV-1 観光都市としての雰囲気づくり＞ （1）観光資源・施設の魅力アップのための周辺環境整備 （2）街並み・道路・河川等の風土的都市景観の形成 ＜IV-2 アクセスと案内機能の充実＞ （1）アクセス機能の整備と誘導サイン・案内の充実【重点施策】 （2）駐車場等の整備 ＜V-1 ホスピタリティ*とサービスの向上＞ （1）ホスピタリティ意識の啓発普及【重点施策】 （2）郷土愛の醸成 （3）市民総ガイド化の推進 （4）外国人受け入れ体制の整備【重点施策】										
勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画	＜交流を生み出す空間づくり＞ 観光地としての活用及び機能の強化／周辺地域と連動した観光ルート及び交通拠点づくり／勝連城跡への案内板・サイン表示の充実／飲食店等の商業施設の充実／情報発信の強化／観光ガイド及び地域活性化に資する人材育成等の組織づくり／南風原集落の文化資源の活用／肝高の阿麻利利など勝連城跡を舞台としたイベントや祭りの開催／。 ＜推進施策＞ <table border="1"> <tr> <td>①南風原集落の資源の活用と回遊ルートの創出</td><td>⑪勝連城跡を活用したイベント等の開催</td></tr> <tr> <td>②まち歩きプログラムの促進</td><td>⑫文化観光案内ガイドや人材育成プログラム</td></tr> <tr> <td>③民泊及び新規滞在施設の整備誘導</td><td>⑬観光体験プログラム</td></tr> <tr> <td>④レンタサイクル運営プログラム</td><td>⑭地産地消の推進</td></tr> <tr> <td>⑤南原漁港活用プログラム</td><td></td></tr> </table>	①南風原集落の資源の活用と回遊ルートの創出	⑪勝連城跡を活用したイベント等の開催	②まち歩きプログラムの促進	⑫文化観光案内ガイドや人材育成プログラム	③民泊及び新規滞在施設の整備誘導	⑬観光体験プログラム	④レンタサイクル運営プログラム	⑭地産地消の推進	⑤南原漁港活用プログラム	
①南風原集落の資源の活用と回遊ルートの創出	⑪勝連城跡を活用したイベント等の開催										
②まち歩きプログラムの促進	⑫文化観光案内ガイドや人材育成プログラム										
③民泊及び新規滞在施設の整備誘導	⑬観光体験プログラム										
④レンタサイクル運営プログラム	⑭地産地消の推進										
⑤南原漁港活用プログラム											
かつちん南風原景観まちづくり計画(案)	6 重点施策 （2）景観に関する整備方針等の検討 ①県道 16 号線の整備方針 （街路樹）街路樹の樹種を変更／統一した街路樹／街路樹の間には花を設置／台風に強い街路樹に統一 （歩道）歩道の拡張／歩道は琉球石灰岩の石畳の整備／鉄蓋のデザインの検討。 （道路）車道の色は明るい色、・自転車道の整備／記念木を植樹できるスペースの設置 （電線）地中化の促進 （街灯）街灯のデザインに配慮 （ガードレール）自然素材のものや落ち着いた色のものの使用 （サイン）歴史を感じられる案内板の整備／道路標識の設置の配慮／設置位置への配慮 （管理）街路樹の管理／地域での実施の検討／地域と行政が連携／沿道の清掃 ②城跡に集積する資源の活用と回遊ルートの検討 資源や緑、海、集落を結び／楽しく回遊できるまちを目指す／資源の再認識／回遊ルートの中心となる道路や資源等の修景整備										

*ホスピタリティとは、心のこもったもてなし。手厚いもてなし。歓待。また、歓待の精神。

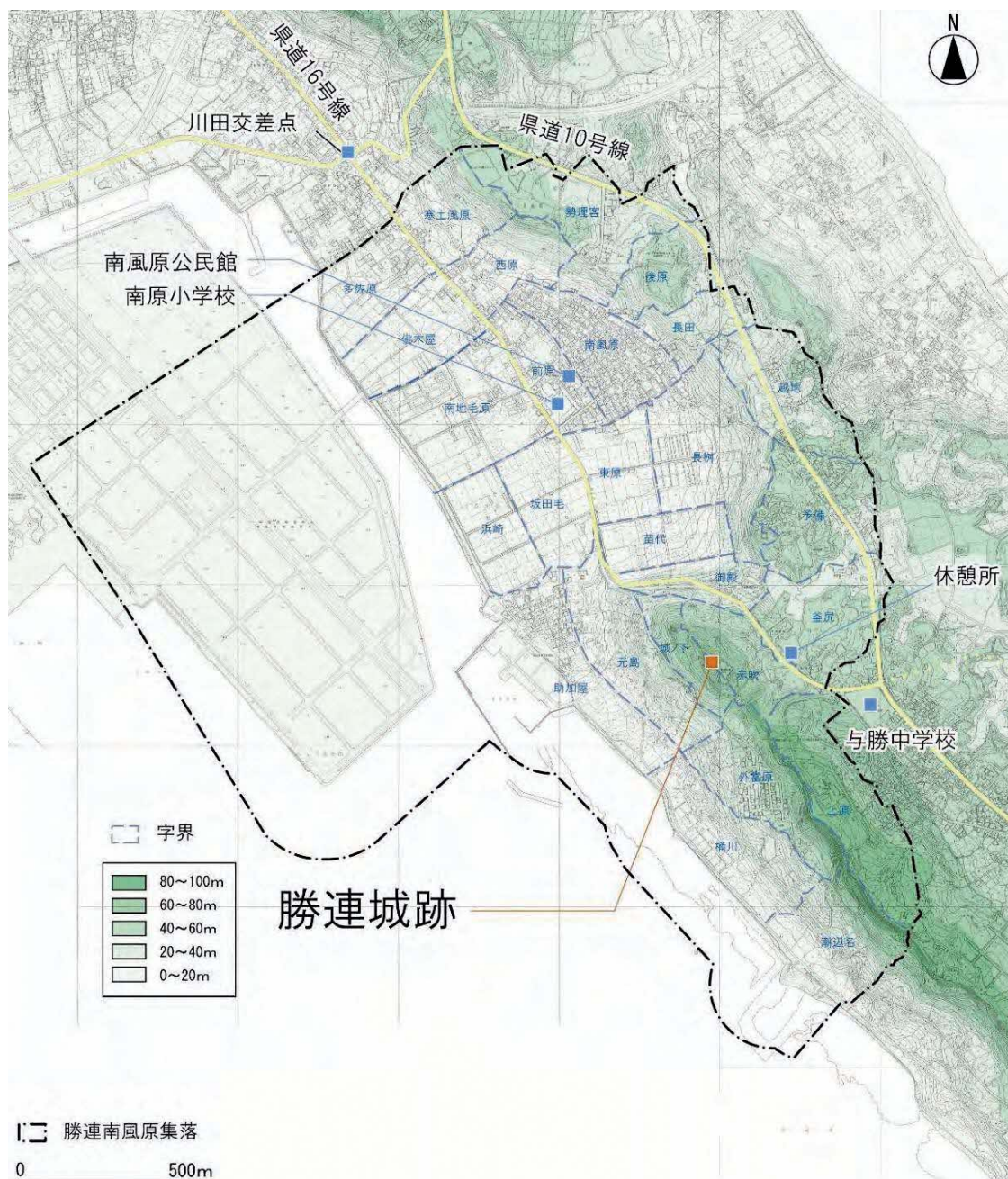
2 位置と地勢

本市は、沖縄県本島中部の東海岸に位置し、県都那覇市から約 25km の距離があります。金武湾と中城湾に面し、島南部に広がる勝連半島の先には、有人、無人の 8 つの島があり、美しい風景と豊かな自然環境に恵まれています。

市域の面積は 86.01 k m²と広大です。気象は亜熱帯海洋性気候に属し、月別の平均気温が 17℃から 29℃、年降水量は約 1,900 mmで、年間を通じ温暖な暮らしやすい気候となっています。一方で、台風常襲地域として厳しい自然環境となっています。

勝連城跡が所在する勝連南風原地区は、本市の半島部（勝連半島）の根元部分に位置し、勝連半島の中央を縦断する丘陵地を境に西側に広がる海岸低地部分と、埋立てにより造成された中城港湾新港地区により形成されています。

■勝連南風原の地形図



3 歴史的背景

12～13 世紀に入ると勝連城跡が築城され、特に勝連城跡 10 代目城主阿麻和利^{あまわり}の時代になると勝連は最盛期を迎え、徳之島や奄美大島、さらに中国や朝鮮との交流も盛んに行なわれていました。

城の南側の傾斜地はかつて南風原集落が展開して、海岸には海岸貿易の拠点となった港があり、繁栄していたと伝えられています。それを物語るように御嶽や井戸（カー）などが多数所在し、南風原集落があったとみられる南風原古島遺跡からは石塁遺構などの屋敷跡や、城から分配された陶磁器類が多数発見されています。また、城の北側は、現在ほとんど埋め立てられていますが、かつて湿地帯であり、城の財政を支える田圃などの農地が広がっていたと考えられます。

勝連南風原集落は、勝連城下北・下南貝塚の存在などから、縄文時代には人々の生活が始まっていたものと推測され、以後は漁業と農耕を中心とした生活が営まれていました。

1726 年に前浜三良（カッチンバーマー）*の指導と努力によって、当時の首里王府から部落移動の許可をうけて現在の肥沃な地に移動して、南風原村を形成したと伝えられています。

南風原集落のムラづくりは道路網を碁盤目型に整然とし、また共同井戸、用水地、防風林、防潮林も計画的に配置され、都市計画のおこりは南風原からはじまったと言っても過言ではないと勝連城村誌では記述しています。

【うるま市の歴史】

時代	うるま市の主な出来事	勝連城跡周辺の主な出来事
縄文時代	約 7000 年前 与那城ヤブチ島のジャネーガマでヤブチ式土器が使われる 約 3500 年前 石川の伊波貝塚で伊波式土器が使われる。 （古我地原貝塚、天願貝塚、地荒原名貝塚） 約 2500～2000 年前 伊計島の仲原遺跡で仲原式土器が使われ、集落が展開する 宮城島（シヌグ堂遺跡、高嶺遺跡）、石川東恩納西原、美川原など金武湾一帯の琉球石灰岩台地上にも集落が展開される。	
弥生時代 ～平安時代	約 2000 年前 具志川グスク崖下で弥生式土器が使われる 宇堅貝塚で鉄製品が使われる。 平敷屋トッパル遺跡や金武湾一帯の沿岸でいわゆる「貝の交易」が行われた。具志川アカジャンガー貝塚でアカジャンガー式土器が使われる。	
グスク時代	約 700 年前ごろ勝連城跡・安慶名城跡・伊波城跡など各地に「グスク」が築かれ 按司（アジ）が現れる。中国、朝鮮、日本、東南アジアとの交流を行う。	勝連城跡がつくられる（12～13 世紀）
近世	各地に「間切（まぎり）」が設置され、「太田坂（ウフタビラ）などの「宿道（すくみち）」が整備される。兼箇段で兼箇段ジョーミーチャー墓、伊良部では伊波ヌール墓がつくられる。	阿麻和利の活躍（13 世紀前半） 南風原集落の移転（1726 年）
近現代 ～戦前	約 100 年前明治時代以降、屋取（ヤードウイ）集落の人口が急増する 約 80 年前に勝連平安名に「ワイトウイ」が人力で開通する。 約 70 年前に津堅島新川・クボウグスク周辺陣地壕群が構築される。	
戦後 ～現在	昭和 20（1945）年、沖縄線の最中、具志川グスクで集団自決があった。 また嘉手苅のヌチシヌジガマ（ティラガマ）では住民が全員捕虜になる。 その後、沖縄は米軍統治下におかれる。 戦後復興の下、沖縄諮詢会堂、東恩納博物館、石川部落事務所がおかれる。 昭和 34（1959）年、宮森小学校ジェット機墜落事故が起きる。 昭和 47（1972）年、沖縄が日本へ復帰する 平成 17（2005）年 4 月 1 日、具志川・石川市・勝連町・与那城町が合併して、新市「うるま市」が誕生する。	

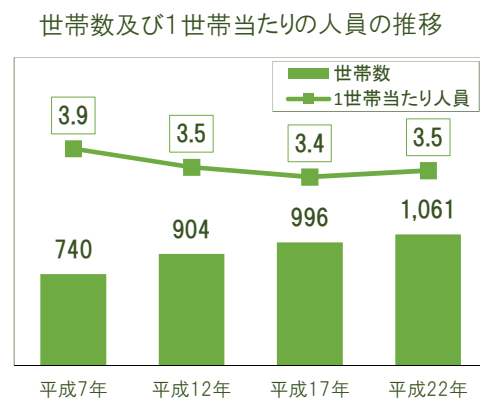
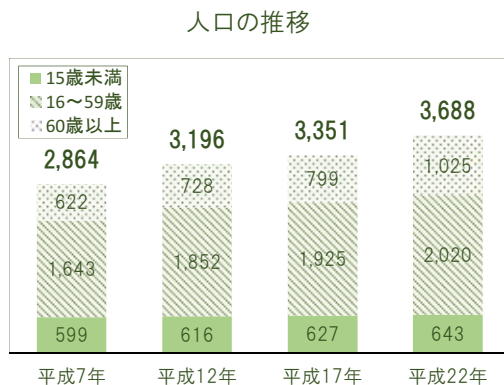
資料：うるま市の文化財

*勝連間切平安名に生まれた前浜三良は浜掟（はまうち）という役職にあったことから勝連パーマーと呼ばれていた。当時の南風原村を不憫な勝連城南方断崖の中腹から移動させ、養漁場を設けて養殖に先駆者と役割を果たしたと伝えられる。伝説的な人物として琉球中に名を轟かせた。

4 人口・世帯数

勝連南風原地区の人口は、平成 22 年の国勢調査によると、総数は 3,689 人となっており、平成 7 年と比べると、824 人（28.8%）の増加となっています。年齢階級別人口で見ると、60 歳以上の高齢者の割合が増えてきており、平成 22 年の国勢調査時点では、60 歳以上の人口の割合が 25% 以上となっています。

世帯数は、平成 22 年の国勢調査によると、世帯数 1,061 世帯であり、平成 7 年と比べると、321 世帯（43.4%）の増加になっています。一方、1 世帯当たりの人員数は、減少傾向にあります。

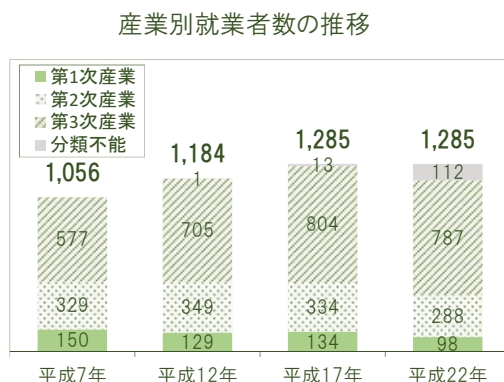


資料：国勢調査

5 産業

平成 22 年の国勢調査によると、勝連南風原地区の産業別人口の総数は 1,285 人で、年々増加傾向にあります。産業別就業者数を見ると、第三次産業（61.2%）が最も多く、次いで第二次産業（22.4%）、第一次産業（7.6%）となっています。産業別就業者数の動向としては、第三次産業が伸び、第一次産業と第二次産業が減少傾向にあります。

平成 22 年における第三次産業の内訳を見ると、医療・福祉が 187 人と最も多く、次いで卸売業・小売業の 154 人、サービス業（他に分類されないもの）の 100 人と続いています。



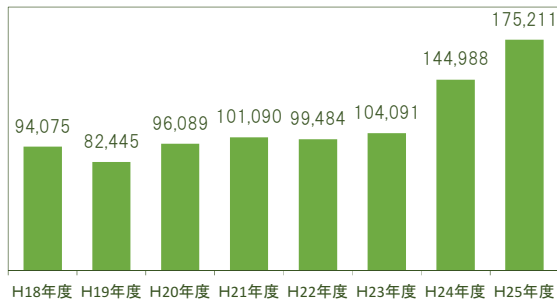
資料：国勢調査

6 観光

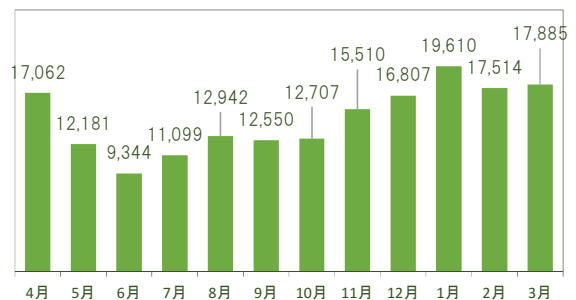
勝連城跡の入場者数は、年間約 17 万 5 千人（平成 25 年度）であり、近年、入場者数は増加傾向にあります。

また、平成 25 年度の勝連城跡月別入場者数を見ると、11 月から 4 月は入場者が多く、5 月から 10 月は入場者が少なくなっています。最も入場者数が多い 1 月と最も入場者数が少ない 6 月を比較すると、1 万人以上の差があります。

勝連城跡休憩所来客者数の推移(年度別)



平成25年度 勝連城跡休憩所来客者数の推移(月別)



資料：うるま市商工観光課

7 観光資源

勝連南風原地区の観光資源は、世界遺産に登録されている勝連城跡をはじめ、海や山などの自然や沖縄特有の集落の景観、集落内に多く残るカーなどの史跡、エイサーなどのイベント・伝統行事などがあります。

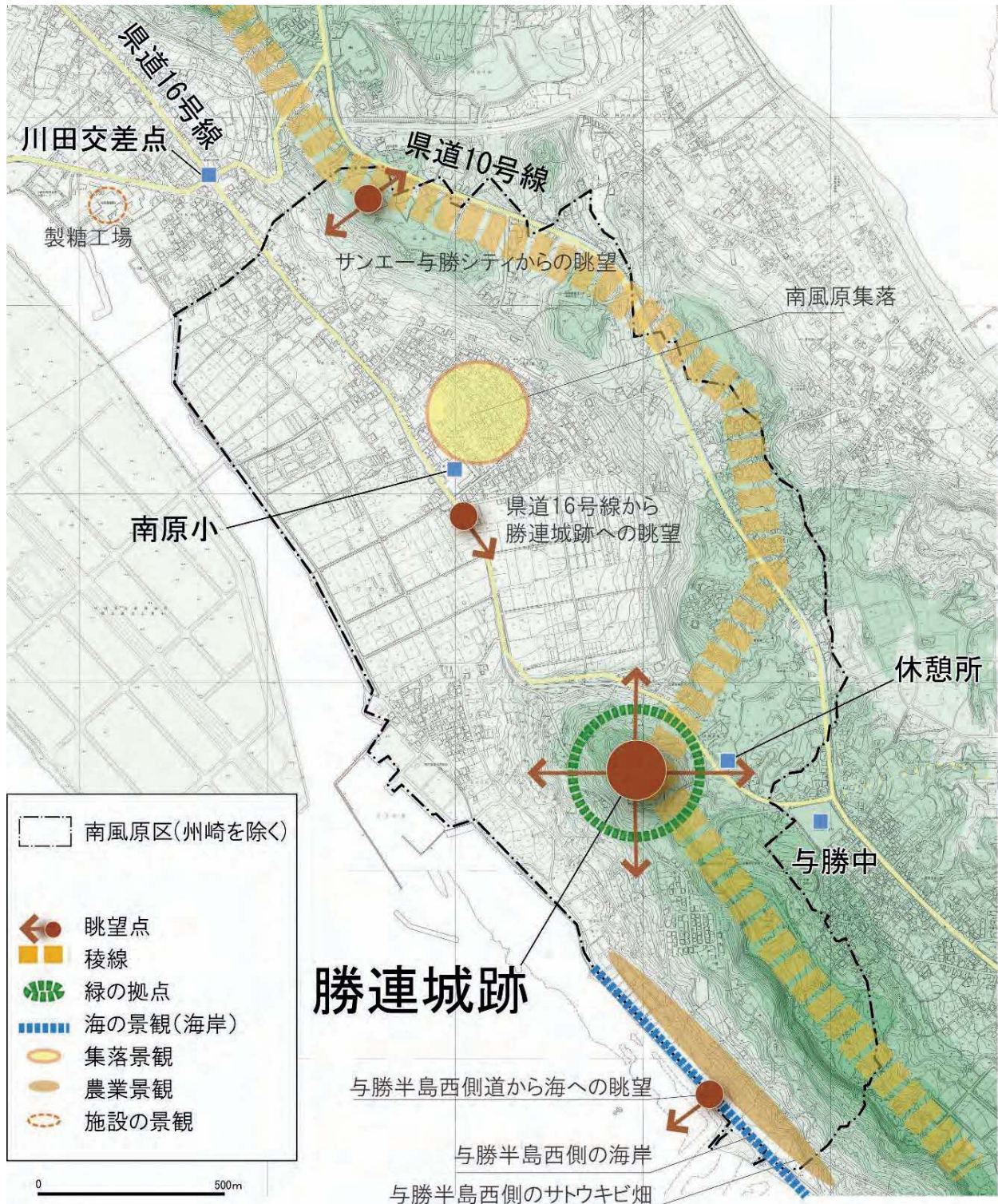
■主要観光資源の分類

分類	観光資源
(1) 自然・景観	勝連城跡の歴史的景観／高台からの眺望／集落景観／海と農地の景観
(2) 史跡・名所	カー（井泉）／拝所・御嶽
(3) イベント・伝統行事	獅子舞／エイサー／現代劇

(1)自然・景観

勝連南風原地区には、世界遺産である勝連城跡がうみだす歴史的景観をはじめ、高台からの眺望や集落景観、海と緑などの自然景観資源が多くあります。

■うるま市景観計画に掲載されている勝連南風原集落の景観資源



■世界遺産である勝連城跡がうみだす歴史的景観・眺望景観

平成 12 年 12 月に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録された勝連城跡は、世界遺産としての価値はもとより、沖縄の精神文化や歴史的資源の関係性、物語性を体感する上でも大切な資源です。その勝連城跡の城郭からのぞむ 360° の大パノラマは、訪れる人々の心を魅了しています。



■高台からの眺望

変化に富んだ地形を持つ本市は、眺望点となる高台が数多く存在し、その高台から望む多彩な眺望が重要な景観資源となっています。勝連城跡周辺においても、勝連南風原集落北東を走る尾根線上からの眺望が景観資源として評価されています。



■集落景観

勝連城跡城下にある勝連南風原集落は、碁盤の目状に整備されています。集落内には風水にまつわる史跡や伝統的な様式を残した民家も残されています。



■海と農のある半島西側の景観

勝連城跡は勝連半島の中央西寄りに位置します。城跡近くの半島西側の海岸沿いは、海への眺望とサトウキビ畑が連なり、のどかな自然景観を形成しています。



(2) 史跡・名所

勝連南風原地区には、勝連城跡を中心に数多くの遺産や史跡、歴史的建造物、有形民俗文化財、歌碑、名所が存在します。

■勝連南風原地区の史跡・名所等



■主な史跡の解説

名称	解説
勝連城跡	勝連半島の根元部分丘陵上に築かれており、最高部の一の曲輪（標高 98m）に登ると東海岸一帯を眺望することができます。 勝連城は歴代の城主が海外との交易を活発に行い栄えていました。城跡からは中国産の高価な陶磁器なども出土しているほか、大和産の鎧や刀類、東南アジア産の陶磁器なども出土しています。また、大和系の大型の瓦も発見されています。県内のグスクで瓦を使っていたのは勝連城跡のほかに首里城と浦添城跡だけです。これらの出土品から当時勝連城が海外貿易の拠点として、琉球で強力な力を持っていたことがうかがえます。 平成 12 年 12 月に世界遺産に登録されました。
南風原古島遺跡	勝連城跡の南東側の斜面地域に大きく発展したグスク時代の集落遺跡です。1986 年に大規模な宅地開発が計画され、記録保存の発掘調査が実施されました。その結果、勝連城跡の麓に展開する集落の石塁遺構が発見され注目されています。また、城から分配された陶磁器類が多数出土しています。 さらに、鉄滓（てっさい）という、鉄を加工する際に出る鉄の屑が集中して出土する箇所があり、採集される土器からみて、グスク時代～近世の鍛冶場跡の可能性が高いと考えられています。
クトジ遺跡	クトジ遺跡は、琉球国由来記に勝連間切の拝所として、「コト瀬嶽神名マネヅカサノ御イベ」と記録されています。旅果報、航海安全を願う拝所です。昔話では、中国から来た女性が、この御嶽の洞穴で子どもを出産したと伝えられています。また、中国から品物を運んできた時は、まずはこの御嶽に置いてからグスクに運んだとも伝えられています。
村獅子	サンゴ石灰岩を加工してつくった素朴な獅子像です。村のフーチゲージ（邪気払い）として、南風原村が勝連城跡南側の元島原より移動したとき、村の境界として東西南北の 4 角に置かれたと伝えられています。 今では北側と西側が残っているだけですが、集落の研究や民俗資料として貴重なものです。
マンナカガー他	マンナカガーは、字南風原の中ほどに位置しています。現集落には、その他にアグリガー、イリーガー、アシビナーのカーなどがあります。この四基は、築造技術や形態がよく似ており、集落移動した 1726 年頃の同時期に築造されたと考えられます。
マーカーガー	元島原の大岩の下にある降りカー式の井泉です。字の繁栄を願う拝所の 1 つで、元島時代のウブガーでした。神拝み時、このカーで手足を清めて勝連城内に登ったと伝えられています。
宿道	旧藩時代首里王府から各間切番所の令達を送り届ける事務を宿次といい、東海岸に沿ってゆくものを東宿と称していました。（東宿は西原→宜野湾→中城→具志川→勝連→与那城）この宿次のコースとなる主要な主要路が「宿道」と言われていました。
苗代道	字南風原東側の農道。主要な里道（国道、県道以外の道路の旧称）の 1 つ。苗代原は予備腹の豊富な水源を利用して稲作が中心で、主要な農道の一つだったと言われています。

資料：きむたかの文化財シリーズ③南風原（勝連町教育委員会）、南風原字誌
うるま市の遺跡（うるま市立海の文化資料館）

(3) イベント、伝統行事等

勝連南風原地区には、南風原の獅子舞やエイサー、現代版舞踊などの地域特有のイベント・伝統行事があります。また、年中行事は、沖縄の方言でウイミまたはフユミ（折目）、シチビ（節日）と呼ばれており、生活の中の区切りを意味しています。

■主要行事

南風原の獅子舞	字南風原の獅子舞は、1726年に勝連間切地頭代前浜親雲上（カッチンバーマー）という優れた指導者が首里抱負から村落移動の許可を取り付け、勝連城の南側傾斜地から現在地に村を移動した頃からムンヌキ（魔除け）として舞われてきた民俗芸能です。	
勝連南風原エイサー	南風原エイサーは、戦後青年会の結成と同時に作られました。全体的にゆっくりとしたテンポが多いことが特徴で、優雅さを基本としています。	
現代版舞踊 「肝高の阿麻和利」	沖縄県うるま市の中高校生が出演している現代版組踊「肝高の阿麻和利」。 沖縄に古くから伝わる伝統芸能「組踊」をベースに、現代音楽とダンスを取り入れて、勝連城10代目城主「阿麻和利」の半生を描く、いわば「沖縄版ミュージカル」。1999年に、当時の勝連町教育委員会が、子ども達の感動体験と居場所づくり、ふるさと再発見・子どもと大人が参画する地域おこしを目的に企画したものです。	

資料:きむたかの文化財シリーズ③南風原(勝連町教育委員会)、南風原字誌、うるま市の遺跡(うるま市立海の文化資料館)

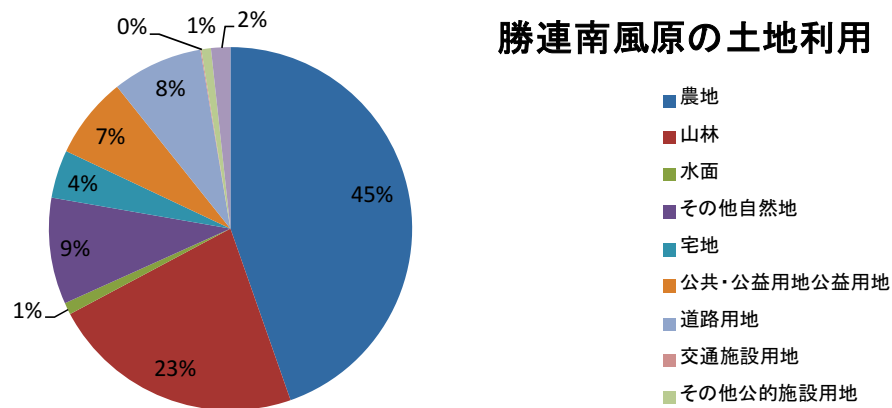
8 土地利用

(1) 土地利用状況

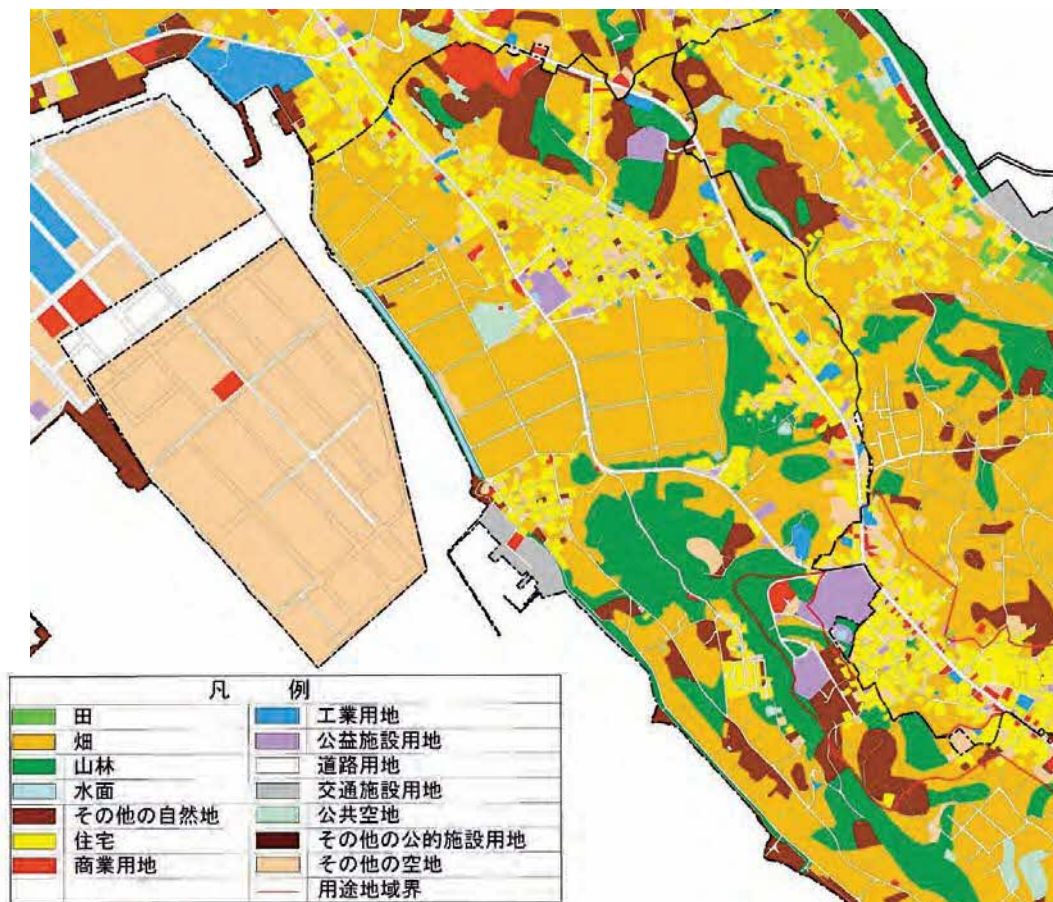
勝連南風原集落の面積は、357.46ha であり、集落内の土地利用は、主に畑を中心とする農地(45%)や山林(23%)などの自然的土地利用が主体となっています。

また、近年、勝連南風原地区内には、空き家や休耕田が増加傾向にあります。

■勝連南風原の土地利用内訳



■勝連南風原の土地利用現況図



資料：平成 19 年度中部広域都市計画基礎調査(沖縄県)

(2)土地利用規制

勝連南風原集落の全域は都市計画区域、地区の中央や海岸沿いに広がる農地は農用地、勝連城跡周辺や集落外縁の斜面地の一部は森林地域に指定されています。

■土地利用規制図



資料：平成 19 年度中部広域都市計画基礎調査（沖縄県）

(3)都市計画

勝連南風原集落の74%は用途地域未指定区域であり、残り26%を占める用途地域は、字上原中心に第一種中高層住居専用地域、第一種低層住居専用地域など、住居系の用途が指定されています。また、中城湾港新港地区工業団地は、工業地域と用途未指定地域に指定されています。

■用途地域図



資料：うるま市都市計画図(平成23年4月現在)

(4) 景観に関する規制

① 景観法に基づくうるま市景観計画

うるま市全域の一定規模以上の建築・開発行為等については、景観法に基づくうるま市景観計画によって、下図のエリアごとに応じた高さ制限や形態意匠等の規制が行われています。

勝連城跡周辺については、城跡の世界遺産への登録に合わせ、城跡周辺の環境を保全するための「勝連城跡の環境保全に関する条例」が制定されており、この条例に基づき、建物・開発行為等に関する高さ制限や形態意匠の誘導が行われています。

■ うるま市景観計画の区分と勝連城跡の環境保全に関する条例の区域



■うるま市景観計画の規制等

根拠法		景観法	
手続き		届出制（勧告、変更命令）	
届出対象行為		建築物、工作物、開発行為、土地の区画形質の変更、木竹の伐採、屋外における土石、廃棄物等の堆積、水面の埋め立て・干拓、特定照明（それぞれ一定規模以上）	
数値基準 （建築物に関するもの のみ抜粋）	高さ	住宅地（第一種低層住居専用地域）	10m以下
		海・河川、緑・農地・集落	11m以下
		住宅地（第一種中高層住居専用地域）	14m以下
		住宅地（第一種住居地域）、商業地	17m以下
		工業・大規模施設用地（工業地域）	25m以下
		全域（屋上に設置する建築設備）	一律 5 m以下
	色彩	全ての地域（外壁の基調色）	明度 8 以上、彩度 2 以下
	緑化	海・河川、緑・農地・集落、住宅地	緑地率 20%以上または緑被率 30%以上
		商業地	緑地率 10%以上または緑被率 20%以上
		伊計平良川線、県道 16 号線沿道	緑被率 15%以上

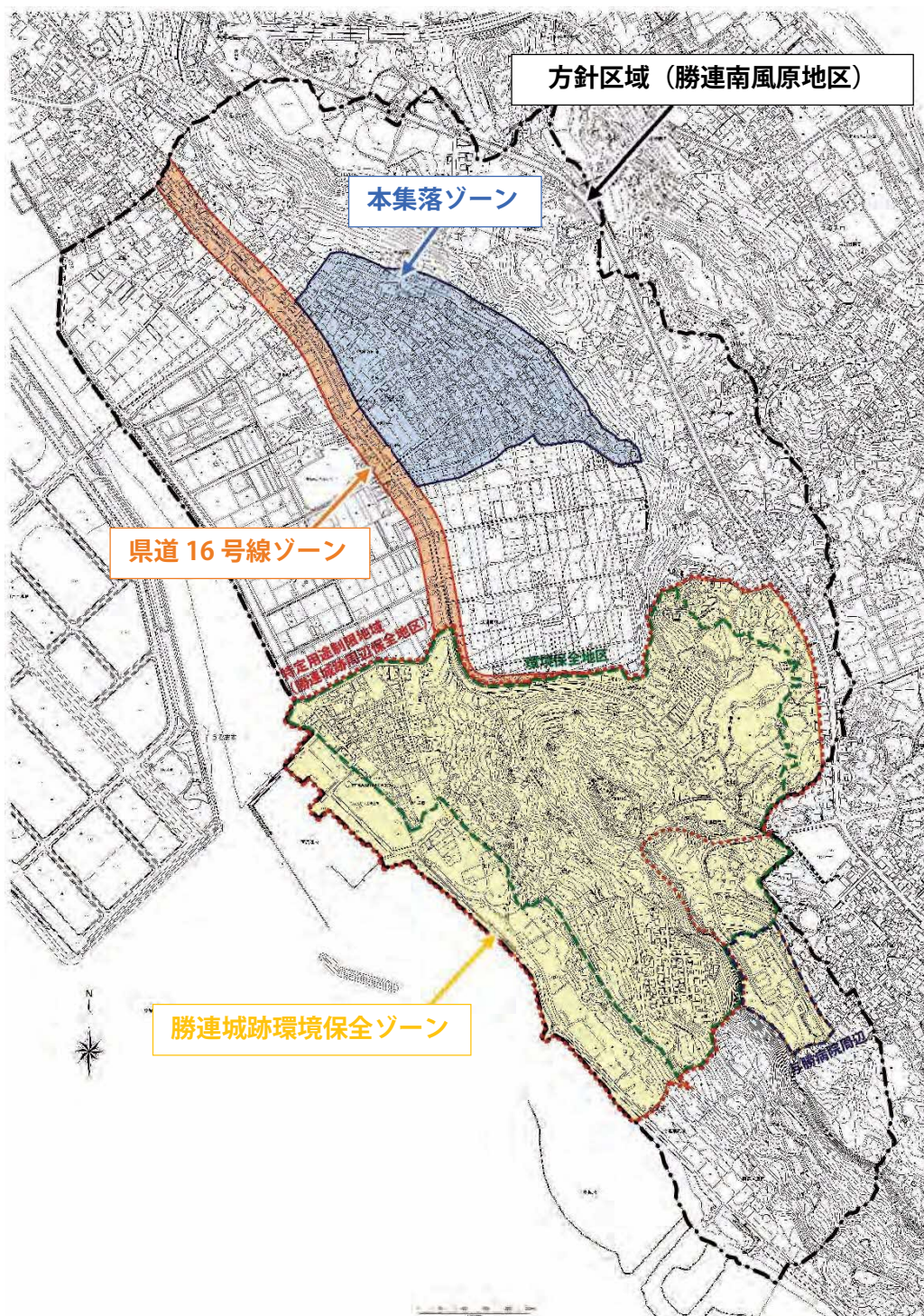
②景観地区の決定（検討中）

うるま市は、沖縄本島中部の東海岸に位置し、多彩で美しい景観の保全・創出により「住んでよし、訪れてよし」の美しい景観づくりが進められています。

勝連南風原地区では、世界遺産である勝連城跡を中心とするエリアであり、市を代表する観光地としての魅力を高めるとともに、全市の景観づくりに先駆けて景観誘導を進め、世界遺産である勝連城跡周辺としてふさわしい街並み形成を図るため、景観地区の指定を目指しています。

以下の内容は検討中の内容です。

■中部広域都市計画景観地区の区域、地区の区分



■中部広域都市計画景観地区の規制等(検討中)

中部広域都市計画景観地区を次のような内容で検討しています。位置、区域及び地区の区分は、前項の計画図表示のとおりです。

地区 区分	名称	本集落ゾーン	県道 1 6 号線ゾーン	勝連城跡 環境保全ゾーン
	面積	約 20.4 ha	約 8.2 ha	約 82.7 ha
建築物の 形態意匠の 制限	屋根・ 外壁	・屋根の色彩は、周辺景観との調和に配慮し、原色の使用は避けること。 ・屋根はできる限り県産赤瓦とすること。		
		・外壁の大部分を占める色彩は、落ち着いた白または淡い色彩を基調とし、周辺景観等の調和に配慮すること。（明度 8 以上、彩度 2 以下。ただし、木材・石材・素焼き（顔料を使用しないものに限る）・コンクリートなどの素材色は除く）	・外壁の大部分を占める色彩は、落ち着いた白または暖色系の淡い色彩を基調とし、周辺景観等の調和に配慮すること。（明度 8 以上、彩度 2 以下。ただし、木材・石材・素焼き（顔料を使用しないものに限る）・コンクリートなどの素材色は除く）	
		・デザインのアクセントとして壁面や軒裏に対して基調色の範囲外の高明度・高彩度の色彩（アクセント色）を使用する場合は、周辺景観との調和に配慮するとともに、使用面積は各立面の表面積の 5 % 以下にとどめること。 ・外壁はできる限り琉球石灰岩などの本市または本県の景観特性を特徴づける地場産材や、木材、石材などの自然素材の活用を努めること。		
		－	・県道 16 号線に面する外壁の位置は、グスクへの見通しや道路空間の開放感を確保するため、道路境界からできる限り後退させること。	
	建築設備等	・屋外に設置する建築設備の高さは 5 m 以下とすること。 ・屋外・屋上に設置する建築設備については、道路や公園等の公共の場所から容易に見通せないような場所に配置したり、遮蔽するなど、目立たせないように工夫すること。 ・駐車場・ガレージを設置する場合は、設置場所に配慮するとともに、周囲と調和した塀等を設けること等によりまちなみの連続性が損なわれないように配慮すること。 ・屋根・庇・門など、公共の場所から望める位置にできる限りシーサーまたは石獅子を設置すること。		
建築物の 形態意匠の 制限	かき・ 柵・ 塀・ その他 外構	・かき・柵・塀を設ける場合は、石積、石張、生垣のいずれかとする。ただし、石積、石張り、生垣以外のものであっても、良好な景観形成に寄与すると認められるものは、この限りではない。 ・かき・柵・塀を用いる場合は、高さを抑えたり透過性を確保するなど、圧迫感の軽減と周辺景観のへの調和に配慮すること。 ・擁壁の上部にかき・柵・塀を設置する場合は、擁壁とかき・柵・塀を一体と捉えて、圧迫感の軽減と周辺景観のへの調和に配慮すること。 ・生垣とする場合は、あかばななどの地域の植生等と調和する植栽使用すること。 ・村獅子、石垣、カー（湧水・井戸）、あしびなー（遊び場）、古木、屋敷林などの景観形成上重要な要素が敷地内にある場合は、それを保全するとともに、景観形成に活用すること。		
建築物の高さ の最高限度 または最低 限度		・高さ 11m 以下とすること。		・高さ 9 m 以下とすること。

9 各種意向調査

本計画を策定するにあたり、観光客への意向や関連団体等の意向などを確認するため、各種意向調査を実施しました。それらの結果概要を以下に整理します。

(1)観光客意向調査の結果概要

- ・勝連城跡への訪問者は、県外からが多く、また、2人から4人と比較的少人数で訪れる人が多い。
- ・勝連城跡の訪問回数について、初めての人が多いことから、リピーターが少ないと考えられる。
- ・交通手段は、ほとんどレンタカーか自家用車であり、バスを利用して訪問している人は少ない。
- ・訪問のきっかけは、旅行情報誌が多く、ホームページや旅行会社で紹介されて訪問した人は少ない。
- ・勝連城跡周辺で訪れたい場所では、海、海の近くが最も多く、次いで歴史資源・文化資源、自然や生態系が豊かな場所となっており、これらは、勝連城跡から望んだ景観で印象に残っているものであると考えられる。
- ・回遊するにあたって望むものでは、ベンチや東屋など休憩できるスペース、観光資源マップや回遊コース、木陰ができる大きな樹木などの意見が多く、回遊コースや休憩できるスペースが求められている。

(2)関連団体等意向調査の結果概要

- ・勝連城跡周辺で回遊観光に関連して取り組んでいる事業は、勝連城跡の整備や案内サインの整備など文化・観光に関連する事業が多く、農業や漁業などの産業に関連する事業はない。
- ・案内サインの整備等は、うるま市文化課及び商工観光課が調整しながら進めている。
- ・勝連城跡を活用して様々なイベントが行われている。しかし、勝連城跡は遺構保全の観点から利用可能なスペースに限度があり、また、駐車場の大きさも十分でないため、大きなイベントができない。
- ・畑を休ませている時期に、観賞用の花を植えるなどの活用が可能。また、遊休農地の活用も考えられる。
- ・活動団体は、ボランティアの団体であり、特に資金面と人材面に課題を抱えている。
- ・活動団体は、活動内容の需要が高まってきていることから、メンバー不足やメンバーの負担が過大となっており、新規人材の確保と人材の育成が課題である。
- ・活動団体は、他の活動団体との横のつながりがほとんどない。

(3)住民意向調査の結果概要

歴史	・カッチンバーマーのストーリー性を持たせる ・文化体験学習ができる仕組みをつくる
拝所(御嶽、 カー等)	・パワースポット巡り（地域住民に配慮する必要がある） ・清掃の取り組みを復活させる/なくなってしまった村獅子を復元する
休憩所	・回遊させるためには、途中にトイレや休憩所が必要/維持管理もしっかりする必要がある
移動	・レンタサイクル、サイクリングコース ・高齢者や障がい者のため、拠点には駐車場が必要である/訪問者に対する案内サインを設置する
農地	・遊休農地に、訪問者が歩いて楽しめるように花を植える/昔ながらの農作物（稲等）を再現した農業体験
空き家	・空き家を活用して農業体験 ・古民家の再生
ユビダー	・ユビダーに行く途中にある階段について、街灯を設置する等、ヘビ対策を実施する
元島原	・元島から集落移動の歴史をたどるストーリーをつくり回遊させる ・浜川カーの近くに、石畳の整備が必要である
海岸	・浜屋東（ハマヤアガリ）には観光のポテンシャルがある。砂浜も残っている

10 現況及び課題の整理

(1) 現状のまとめ

①南風原地区は回遊観光のポテンシャルが高い

- ・勝連城跡をはじめとする歴史資源や豊かな自然景観、地域特有の伝統行事等の文化資源など多数の魅力的な資源が地域に分布している。
- ・気候は亜熱帯海洋性気候に属し、年間を通して温暖である。

②歴史・文化資源のつながりが活かされていない

- ・勝連城跡や集落、点在する地域資源には、歴史的なつながりがある。
- ・しかし、地区内に点在している歴史・文化資源には、説明サインの整備や情報発信が行われていないため、地域資源の歴史的なつながりや魅力が伝わりにくい状況である。

③勝連城跡を含む観光資源の認知度が低い

- ・勝連城跡は、年間約17万人以上の観光客が訪れているが、初めて訪問する方が多いことから、勝連城跡及び地域資源の認知度は低く、リピーターが少ない。
- ・勝連城跡を見終わると、すぐに別の場所に移動している。

④観光客に見せるための資源の整備がされていない

- ・住民が生活する集落内に点在する地域資源は、観光客向けの整備がほとんどされていない。
- ・ほとんどの地域資源には、歴史的背景や魅力を伝える説明サインが整備されていない。
- ・多言語化に対応したサインが不足しているため、外国人訪問者が訪れにくい。
- ・歴史・文化資源の中には、一部破損しているものがある。
- ・ほとんどの歴史・文化資源では、清掃など定期的な維持管理が行われていない。

⑤観光客による地域への経済効果が低い

- ・勝連城跡を訪れる観光客は、滞在時間が1時間と短く、観光客の消費は些少である。
- ・勝連城跡周辺には商業施設や店舗などの消費活動を促すスポットが少ないため城跡見学が終わるとすぐ別の場所に移動している。

⑥地域資源まで移動することが困難である

- ・勝連城跡から周辺集落までの距離が離れており、高低差もある。
- ・地域内に、休憩できる場所や飲食ができる場所が少ない。
- ・歩道に雑草が生い茂り、歩道が狭い、もしくは、安全に通れない状態になっている。
- ・ほとんどの地域資源には、案内サインなどが整備されておらず、地域資源までの道のりがわかりづらい。
- ・地域資源の近くに観光客用の駐車場が不足している。

⑦地域の特徴的な産業や伝統行事等が衰退している

- ・農漁業を中心に発展してきた地区で、現状、農地の土地利用も多いが、第1次産業の就業者は減少し、遊休農地も点在している。
- ・地域特有の伝統行事等が一部受け継がれているが、時代の変遷とともに地域独自の文化が変化衰退、消失しつつある。

⑧市民団体の活動需要が高くなってきている

- ・希の会や史跡ガイドの会などの市民団体は、観光振興や美化活動を積極的に行っており、活動の需要も高くなってきている。
- ・しかし、これらの市民団体は、組織として資金面や人材面での課題も抱えている。

(2)勝連城跡周辺の回遊観光に関する課題

①地域特有の歴史・文化をストーリーとしてつなげる必要がある

- ・勝連城跡や勝連南風原集落を中心に点在する地域資源は、歴史・文化的な背景やつながりがあるが、これらの背景やつながりなどの魅力が伝えきれていない。
- ・地位資源の歴史・文化的な背景やつながりを、地域全体のストーリーとしてつなげることで、埋もれている地域資源の魅力を最大限に引き出し、観光資源として活用されることが求められている。

②歴史・文化資源の保全及び活用が必要である

- ・地域資源の中には、一部破損している資源があり、歴史・文化の継承、教育的な資料の活用の面から修繕・保全が求められている。
- ・住民の生活の場である集落内にある地域資源は、観光客に見せるための整備がされていない。そこで、勝連城跡周辺の回遊観光を推進するために、集落内の地域資源を観光資源として整備することが求められている。

③観光客の滞在時間及び消費を拡大させる仕組みをつくる必要がある

- ・勝連城跡には年間 17 万人以上の観光客が訪れているが、観光客の滞在時間が短く、消費は些少であることから、観光客による地域への経済効果が低い。
- ・観光客が勝連南風原地区に長く滞在し、地域にお金を落とすための仕組みをつくることが求められている。
- ・また、観光客の消費拡大により得た収益から、更に観光整備や新たなサービスなどを提供することにより、循環型の良好な環境を構築し、リピーターの確保につなげることも求められている。

④移動しやすい環境の整備が必要である

- ・勝連城跡から集落までの距離が離れており、案内サインがない、歩道には雑草が生い茂っている、外国人観光客への対応が不十分など、移動が困難な状況となっている。
- ・そのため、地域資源間の移動方法に合わせたインフラの整備、休憩スペースや駐車場、案内サインの充実、歩きたくなる道路環境の整備、サインの多言語化などが求められている。
- ・また、まち歩きやレンタサイクル等を活用しながら、来訪者が楽しみ、歴史を感じることができるルートづくりを検討する必要がある。

⑤継続を可能とする仕組みが必要である

- ・既存の地域資源や施設・設備（道路、休憩所、案内サイン、説明板等）の中には、維持・管理が不十分なものがあり、施設・設備の利用面や安全面で問題となっている。
- ・地域資源や既存の施設・設備を有効に活用するためには、適切な維持・管理を継続的に行うことが求められている。
- ・また、新たなハード整備やソフト事業（回遊マップの作成、イベントの実施など）を検討する際には、継続的な管理・運営等の仕組みを想定して整備を進める必要がある。

⑥市民団体等の組織の基盤を強化する必要がある

- ・勝連南風原地区では、さまざまな市民団体が活動しており、勝連城跡周辺の回遊観光を推進していくためには、これらの市民団体の活動の役割は重要であると考えられる。
- ・市民団体等は、組織として資金面や人材面等の課題に直面していることから、これらの市民団体の活動を促進するために、組織としての基盤を強化していくことが求められている。
- ・また、勝連城跡の回遊観光整備を推進していくために、各市民団体が円滑に協力・連携し、それぞれの強みを生かすためのプラットフォームを構築することが求められている。

